

## 5. 地域評価

植生の観点から地域評価を行うと、代償植生化の進んだ今日では、自然性が高く希少性のある自然景観構成要素1（自然裸地）、同2（海岸自然草原）、同3（海岸自然林）、同4（山地自然林）、重点地域特有の景観構成要素（城山のムクロジ林、さつき松原の海岸砂丘草原と塩沼地草原）、水質浄化機能のある水生植物群落を含む地域に高い評価が与えられるのは当然である。

しかし、自然性はこれらには劣るが、境界山地に広く分布し水源涵養機能のあるスギーヒノキ植林のほかやシーカシ萌芽林・マテバシイ萌芽林・竹林、防風・防砂・防潮・保養機能のある海岸クロマツ林、特異な分布型（いわゆる九州西回り植物）を示すアオモジ林にも高い評価が与えられるべきである。

ただし、スギーヒノキ植林、海岸クロマツ林、竹林等は、育林作業が伴わなければその機能が減少するので、今後とも官民一体の施策の継続と発展が望まれる。また、富栄養化が進み、アオコやヒシ群落が発生している大井ダムや多礼ダムについても、今後とも注意を払うべきである。

また、自然・里地里山景観構成要素には、それぞれ色、形、大きさに関する特徴を持ち、規模に応じた水平的・垂直的広がりがあるので、街づくり計画に活かすこともできる。